

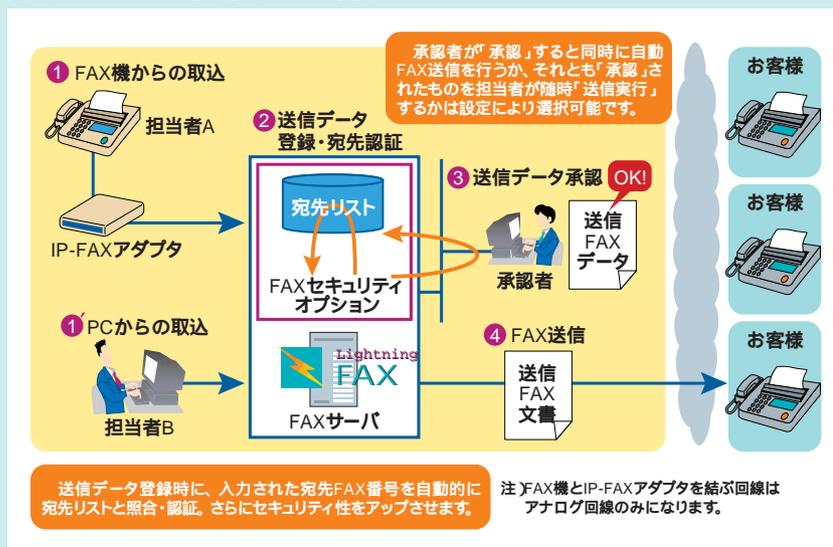
蝶理情報システム

PR

企業の情報漏洩対策を強化する FAX 誤送信防止システム

顧客DBやEメールと異なり、紙に書かれた情報の流出を防ぐシステムは少ない。蝶理情報システムのFAXサーバー「ライトニングFAX」は、外部送信に対する事前チェック機構を搭載。過失か故意にかかわらず、誤送信による情報漏洩を防止する。

図 ライトニングFAX誤送信モジュール概要



ネット社会の急速な発展の結果、個人情報漏洩やネット犯罪に企業が巻き込まれる危険が高まっている。そこで政府は昨年4月、個人情報保護法を本格施行。企業に蓄えられた個人情報の悪用を防ぐ目的で、その運用に一定の制限を設けた。

この法律に関係する過去の事件を振り返ってみると、被害者への謝罪金や賠償金は、数千万～数十億円にのぼる。事件が明るみになった企業では、金銭の損失以上に、信用力の失墜が大きな痛手となり、信頼回復に多くの時間と労力が費やされることになる。

対応を間違えれば企業の存続をも左右するこれらの事件は、実行犯のほとんどが、社員や外部派遣の社内スタッフだった。このため「内部セキュリティ」の強化が、広範な企業の課題として認識されるようになった。

柔軟性の高いFAX 誤送信機能

情報漏洩を防ぐ有効な対策のひとつは、情報を外部に持ち出せないようにすることだ。その点、顧客DBやEメールなどのデジタル情報には多くのセキュリティシステムが用意され、最適な方法を選択できる。アクセス権の設定や暗号化によって、比較的簡単に流出を防げる。だが、紙に書かれた図面や書類では、そうはいかない。

例えば、書類を持ち出せないようオフィス設備を変え、紙自体の流出は防げたとしても、書かれた内容はFAXで転送できる。FAXにセキュリティをかけない限り、情報の流出を完全に防ぐ

ことはできないのだ。

蝶理情報システムのFAXサーバー「ライトニングFAX」は、外部送信に対する事前チェック機構を搭載。専用モジュールによって、過失か故意にかかわらず誤送信を防止する。

仕組みは図のとおりで、次のような処理フローを実行する。

既存のFAXまたはPCから「ライトニングFAX」のFAXサーバーにFAXの送信データが送られてくる

送信先のFAX番号が、予め登録され自動送信を許されたものであるかを自動識別する

FAXデータの内容を承認者が確認し、送信を許可する

許可されたデータは自動送信する
さらに、このフローを構成する各機能は、以下の特徴を備えている。

・既存のFAX機で入力された送信データは、「IP-FAXアダプタ」経由でライトニングFAXが取り込む。このた

め既存のFAX機を変えることなく、セキュリティシステムに統合できる。

・PC上では、ライトニングFAXクライアントソフトの標準機能により、送信先を入力できる。また承認者は、既存FAX機の場合と同じ手順で配信を実行できる。

・FAX機ごとに送信フォルダが生成されるので、各々の情報管理が可能。
・拠点や部署ごとにFAX機を使い分ければ、フォルダ管理を自動化でき、承認者の作業負担を軽減できる。

蝶理情報システムでは「ライトニングFAX」のオープン性を活かして、セキュアな企業情報通信システムの構築を積極的に提案していく方針だ。

お問い合わせ先

蝶理情報システム株式会社
システム営業本部

E-Mail sales.sysei@cjs.co.jp

URL http://www.cjs.co.jp

東京 TEL 03-5949-1750

大阪 TEL 06-6125-4820